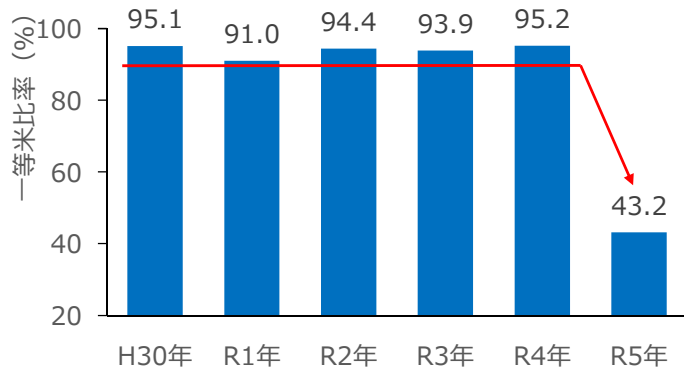


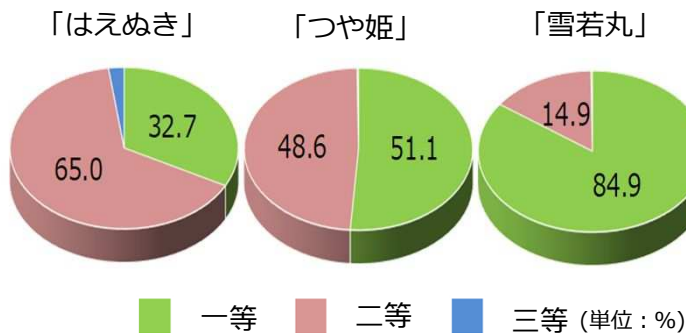
現状と課題

■ 県産米の一等米比率の推移



○本県は一等米比率90%以上を確保する高品質米産地であるが、令和5年は記録的な高温の影響で一等米比率が43.2%に低下した。

■ 主要品種の等級比率



○主要品種の品質が低下するなか、「雪若丸」の一等米比率は84.9%となった。

取組内容

米づくり運動の名称を「やまがた温暖化対応米づくり日本一運動」とし、高温に負けない生産体制づくりを柱に掲げ、以下のことに重点的に取り組む。

① 高温少雨対策マニュアルの活用

- 指導者用の「高温少雨対策マニュアル」を活用した指導者向け講習会を通し、高温に負けない生産体制づくりに向けた指導を強化
- 地域単位で「高温少雨対策マニュアル」を活用した研修会を通し、現場の実情を踏まえた技術指導を徹底

② 新品種の開発

- 「水稻新品種導入検討委員会」を設置し、水稻新品種の導入に向けた検討を実施
- 品質や収量、食味などの実証のため、現地実証圃を各普及課管内（県内11か所）に設置
- 高温耐性品種の開発期間を短縮するため、DNAマーカーの開発を推進

③ 高温耐性品種の生産拡大

- 高温耐性品種である「雪若丸」の生産拡大に伴う新規生産者に向けた技術指導を徹底
- 山形「つや姫」「雪若丸」ブランド化戦略本部との連携のもと、雪若丸専任サポーター制度を活用し、品質・食味・収量レベルアップのための取組みを総合的に支援
- 「雪若丸」生産拡大に伴い種子を増産するため、設備導入支援や除草剤の経費支援や技術支援を通して種子生産体制を強化